

平成 30 年度 第 1 回 タウンミーティング 議事録

【開催日時】平成 30 年 9 月 14 日(金) 午後 6 時～6 時 40 分

【会 場】鷺沼連合町会会館ヴィラージュ

【申込団体】習志野市民生委員児童委員協議会(鷺沼・鷺沼台地区)

【参加者数】17 人(市長、市職員を除く。)

・習志野市民生委員児童委員協議会(鷺沼・鷺沼台地区) 代表あいさつ

・市長あいさつ及び説明

皆さん、こんばんは。習志野市長の宮本泰介です。今日は今年度初めてのタウンミーティングということで、お申し込みいただきありがとうございます。

今日は、日頃皆さんが現場で担っている活動等をいろいろとお伺いをして市政に活かしてまいりたいと思っております。

また、厚生労働大臣と県知事から委嘱されている皆さんを、市からサポートができていのかということを確認する機会でもありますので、どうぞよろしく願いいたします。

・テーマについての意見交換

＜高齢者の福祉施策について＞

高齢者の福祉施策については、今年から 2018 のプランが始まりました。ちょうど介護保険が始まった時からこの「高齢者事業計画」というものがあり、3 年に 1 回見直しを行っています。今回介護保険が第 7 期計画ですので、介護保険が始まって丸 18 年、2018 年 4 月から 19 年目が始まったということです。

現在は、「習志野市光輝く高齢者未来計画 2018」ですが、これまでは「高齢者保険福祉計画・第〇期介護保険事業計画」でした。よりインパクトを持ってもらおうということで、2015 年から「光輝く高齢者未来計画」と変更し、お気づきになった方もいるかと思いますが、「光輝く」というところを音読みすると「こうき」となっています。

2025 年になると、団塊の世代が 75 歳以上になりますので、社会保障費が増えると言われていています。かつ、今習志野市の中、日本の人口の中でも団塊の世代の次に多い人口は、団塊ジュニア世代になっています。習志野市においては、一番多い年齢が、昭和 47 年度生まれ、私の世代 45 歳ですが、20 年後、2038 年には 65 歳になります。ということは、団塊の世代プラス団塊ジュニアの世代が同数になるというのが 2040 年問題と言われていています。こういったこともあり、高齢化率は上がっていく一方で

す。このことが示しているのは、端的に言うとも生産年齢人口、いわゆる一番納税をする人口がどんどん減っていき、逆に支出が増えてくるであろうと言われていて、これを何とかしなくてははいけません。では、どうやって支出を抑え、税収を増やしていくか、こういうことに根差して、「総活躍社会」という言葉や「人生 100 年プラン」があります。

自治体の主な財源は税収です。税収は経済活動の出来高でもあり、生産と消費の回転力にかかっていると言っても過言ではありません。

来年の 10 月に消費税が 10%になるという問題があります。2%上がると当然 2%多く税金が入ってきます。地方六団体(県知事会、市長会、町村会、市議会議長会、県議会議長会、町村議会議長会)すべてが、「絶対に消費税を上げてほしい。この公約だけは果たしてほしい。そうでなければ財政がもたない」と言っています。

これから社会保障に係るお金が増えていく中で、増税を伴わなければ財源がありません。ないとどうするかというと借金をしますが、借金も貸してくれる人がいなければできません。

生産と消費を繰り返しているその中心にいるのが「若い人」です。若い人は、体力を中心に活力があるのでいろいろなところに出掛けます。その時には大小お金が動きます。お金を払っているということは、それを受けている人がいるということであり、それぞれ生活が成り立っているということになります。

ですので、若い人が少ないと、経済循環が小さくなります。経済循環が小さくなるということは、税が入ってこないということにもなります。かといって、税額を上げると経済活動が停滞してしまう恐れがあります。「給料が増えないのに税金が増えてしまったら何も買えない」と思うのは当然です。ですから、増税だけに頼るのはとても危険です。しかし、いろいろなサービスをしなければいけないという状況の中で、消費増税は絶対に避けられません。自治体としてもそれは何とかしてほしいとお願いしているところ です。

そういったことを念頭に、この高齢者未来計画が作られています。そういった視点で見ていただくと理解ができると思います。

ちなみに、習志野市の状況ですが、配布した資料のとおりとなっています。今後 27 年間はずっと高齢者は増え続け、高齢化率は上がっていきます。

2020 年にオリンピック・パラリンピックがあります。それに向けて今たくさんの外国の方が日本に来ています。観光客が日本で使うお金(インバウンド消費)は 10 年前、本当に少なかったですが、3 年前には日本の貿易の輸出額 1 位である車の 10 分の 1 となり、昨年はなんと僅差の 2 位となりました。自動車の輸出額と同じくらいの消費が訪日外国人によってもたらされているのです。これらは、国策として展開しているのです。

さらに、何を意図しているかという、移民難民問題がヨーロッパで起きていますが、日本は、世界中から非難されているくらい難民を受け入れておらず、これにはいろいろ

るな課題があります。その中で今は少子化(生産人口年齢が少なくなっていくということ)を改善しなければなりません。今後、働き手、納税者が少なくなるということへの対応です。

これをどう補おうかといった時に、単純に生まれる人だけを増やすというのは、人生の選択にも関わってくるので限界があります。そうするとヨーロッパのように移民難民を受け入れるという声が上がってきます。しかし、それにはリスクも伴ってきます。

ですので、観光客をたくさん呼び込んで日本という国を見てもらい、その中から正規の手続きを経て日本に一時滞在、例えば、冬はオーストラリア、夏は日本で過ごすというようなことを定着させられないかということも想定して今、観光客を増やしているのです。こういったことがすべて、将来の生産人口年齢が少なくなることによって、税収が少なくなるということへの対応ということになっています。

「高齢者未来計画」の概要版をお配りしていますが、そういった目線で見えていただくとすべて説明できてくると思います。

この計画が目指すものは「住み慣れた地域で、健やかに暮らし、支えあうまち」です。いろいろと書かれていますが、基本的には「体はより健やかに健康に」ということで、これには2つの意味があります。

健康というと病気の予防ばかり言われてしましますが、人間の能力は成長し続けます。最近、95歳のおばあちゃんがインスタグラムをやっているという話題がありました。95歳にもなると、そんなことはできないと何となく思い込んでしまっていますが、できるのです。順応力というのはいくつになってもあります。そういったことを通じて単に健康を保持するだけではなく、新たな進化、そしてその進化から生まれるいろいろな刺激を受けることです。そういうことをずっとやっているとそれが当たり前になってきます。そしてさらに、そこから経済循環を目指すということでもないかもしれませんが、実際そうなります。例えば、インスタグラムのおばあちゃんを取材するのもコストがかかります。それをコストと言ってしまえば負の部分ですが、そのコストを受け取っている人からすればお給料です。それが回っているということです。その回っている中で税金も納めているということです。そういったイメージを持っていただければと思います。

こういう話をすると、「私たち今から会社を起こしたりなどできない」など大きいことのように思いますが、そういうこと以外にできることはあります。ただ単純に外出してスーパーで何かを買うだけでもかまいません。買っていただいた方の先にはそれでご飯を食べている人がいるわけです。それがお給料になっているわけです。

最近私は「とにかく外に出てください」と言っています。2.3歩歩いただけでも例えば靴の底は減るわけですから、極端なことを言えば、次の靴を買う機会が近づくことになります。

現実的に日本は「経済先進国」と言われていて、特に都会ではお金なしで生活している人はまずいません。現金を使っているか、クレジットカードを使っているかは別と

して、お金を使っていることは間違いないです。水を飲めば水道料がかかります。生活保護を受給していても何かでそのお金を使うわけです。そういうようなことの中で対価を意識することは大切なのです。

東京オリンピックのボランティアを一斉に募集し始めていますが、無償ボランティアばかりではなく、有償ボランティアも中心になってくると思います。

習志野市の高齢者をとりまく課題は6つあります。

1番目に「在宅生活を継続することへの不安」です。千葉県の中でも習志野市は都市部です。一方、郊外に行けば行くほど在宅生活を継続することへの不安というのは小さくなります。というのは、家族が多いからです。2番目は「家族などの介護負担」です。都会に子どもが引っ越してくるという現象も起きていますから、今両方に課題があります。3番目は「孤立しやすい独居高齢者・世帯の増加」、4番目は「認知症など支援の必要な高齢者の増加」、5番目は「介護給付費・社会保障費の増大」、6番目は「生活支援の必要性の高まり」です。

これらの課題に対する施策は、概要版の8～12ページに記載しています。

まず、「自分に合った生活場所と介護サービスの充実」ということを柱にして“基本目標1”があります。特に要介護状態の高齢者が自宅で生活を続けていくためには一人ひとりの暮らしに合った介護サービスを充実させることが必要です。自宅生活が困難になった場合、馴染みのある環境で暮らし続けるために介護保険施設などの高齢者向けの住まい(生活の場)を充実させなければいけません。

“基本目標2”では、「安定した日常生活のサポート」、日常生活をどのようにサポートしていくかが基本施策として7つ書かれています。

“基本目標3”は11ページ「いつまでも元気に暮らせる健康づくり」です。今のうちから健康づくりに取り組まないと、習慣も含めて定着しないので、とにかくいろいろなところで健康第一と言い続けることです。

“基本目標4”は、「地域で支えあう仕組みの拡大」です。行政サービスは、基本的には法令に基づいて行いますので、当然それに合致しないケースが出てきます。今皆さんもいろいろなところを訪問され、特に守秘義務・個人情報をもものすごく配慮されていると思いますが、そのこと一つとっても行政だけですべてのサービスを行うには限界があります。そこで地域で支えあう仕組みの拡大ということを書いています。基本施策4-1に「地域住民や地域で活動する事業者による見守り活動の推進」とありますが、まさに地域住民というのが連合町会、町会・自治会、向こう三軒両隣です。こういうことをしっかり実行し、みんなでつながっていただきたい、こういう願いが書いてあります。

9月2日に行われた防災訓練では、各所合計で約2,800人の皆さんに集まっていたいただきましたが、他のふれあい元気事業、町会・自治会のお祭り、鷺沼であればこどもセンターで行うカレーパーティーなど、すべてが防災訓練にもつながっています。地

域の見守りにつながっています。

私が鷺沼で一番心打たれているのは、八劔神社の剣まつりです。「悪事災難を逃れるように」と唱えながら家々を回るまつりですが、歴史的には一度途絶えてしまったのに、復活しています。復活の機会が高潮による津波だったそうです。津波が引いたときにある病気が流行り、皆の無事を確認するにはどうしたらよいか考えたときに、あのまつりを復活させようとなったようです。これは、文献として習志野市史に載っています。

神輿を担ぐまつりも一説によると重ければ重いほどよいと言います。重ければたくさんの方が必要で人を呼ばなければなりません。皆でわっしょいわっしょいを行い、絆が深まります。そういうこともあり、まつりの文化というのは、ずっと続いています。

地域の絆が築かれていれば、何でも対処できます。この未来計画もこのことを難しい言葉で、行政的に書かれているということです。そしてそれが制度となって皆さんに届けられていますので、ぜひ活用していただければと思います。

以上簡単ではございますが、私からの説明とさせていただきます。